

本部だより

●第8号



マーシャル方面遺族会



▲新装なった「遊就館」(黒川誠会長撮影)

平成十五年 慰霊祭・総会・直会

「マーシャル方面遺族会(黒川誠会長)」平成十五年度の慰霊祭は、四月五日(土)午前十時より靖国神社本殿において厳かに挙行されました。

靖国神社の桜は昨年とは異なり平年並みの開花状況でしたが、当日は生憎の雨となり、更に一月並の気温で、参加者の皆様に取りましては寒さに震える昇殿参拝となりました。

参加者は、例年通り参集所前に設けられた本会受付で出席名簿と照合確認後、参集所内に入って昇殿参拝前の説明を受けました。その後一同揃って御手洗所を通り、拜殿に向かいました。

拜殿でのお祓いを受けた後、寒さの中、冷たい雨音を聞きながら高低差のある二つの階段を登り、本殿に向かいました。

本殿では神官による祝詞奏上、黒川誠会長による祭文奏上の後、代表者による玉串奉奠が行われ、黙禱の後今年の慰霊祭が滞りなく終了しました。

■慰霊祭参列者芳名

今年の慰霊祭出席者は、大給湛子相おきつしきよこ

談役以下、百十八名の皆様でした。

◆敬称略・順不同・受付確認が出来た方のみ。【】内は玉串奉奠者です。

- 青森県 須藤明子 岩手県 佐藤享三
- 佐藤英和 宮城県 【高橋とし子】
- 小松順子 大井和子 松木孝子 福島県 富田ミツ 富田キミ 鈴木ヨシエ
- 根本さとみ 茨城県 大部美智子 神永栄子 鈴木藤太 鈴木多賀雄 【北條勝成】 栃木県 猪瀬ナカ 猪瀬康夫 菊池彦亘 埼玉県 小田原利子
- 小野トキ子 北原ひで 小室貞男 小室洋子 桜井かね 小野塚君子 鎌田淳 柴田貞子 中野太江子 鈴木裕子
- 高林芳夫 西勝章雄 藤田羊一 山下みつ 間茂雄 林良子 佐藤知子 千葉県 相川孝夫 石川きみ 渡辺陽子
- 泉水堯恵 岩佐とみ 腰川妙子 吉田操 菅沼昇 東京都 會田くに 荒木

常子 石川勲 石谷典夫 内海静枝

遠藤安男 大山美保子 【黒川誠】

黒川直吉 毛塚通弘 小林法子 佐竹エス 斉藤芙美 鈴木やよひ 田島知恵子 田島くに子 田島照夫 間々田

征史 佃喜美 水野薫 中村順子 谷梯初江 谷梯真須江 【西沢和子】

西田恒子 徳田叶子 沼山正英 晝間

楽平 晝間志津子 番場信子 森田穰

治 山田二美 山口裕子 山口良二

【山森久江】 星野綾子 浜田つき子

米倉章 神奈川県 石沢洋子 岩瀬三

樹三郎 岩瀬純子 糞谷友孝 佐藤隆

一 佐藤章子 佐藤加久也 田中菊枝

田中勝栄 杉本登美子 平井貢 森井

静子 柳沢弘子 西森サツキ 新潟県

山田良郎 長野県 池上忠昭 池上た

か子 岐阜県 【吉田正明】 堀尾洋

平 奈良県 山中美子 栗山美子 香

川県 真鍋信一 真鍋公代 真鍋正美

石川正興 石川妙子 高知県 原一政

原安子 愛媛県 馬場清 馬場泰子

福岡県 平田郁子 石松順子 佐賀県

草場寛 熊本県 土田利子 相談役他

大給湛子 【兵頭義彦】

■定期総会

会場は今年より遊就館の隣にある靖国会館二階(田安・玉垣の間)において正午より行われました。記念写真は雨のために中止となりました。

式次第

- 一、開会の辞 草場寛
- 二、会長挨拶 会務報告 黒川誠
- 三、会計報告 晝間楽平
- 四、役員改選・新会長の選出
- 五、全員一致で黒川誠会長が再選。

黒川誠会長は、「永代神楽祭の申込みが終了し、今後、靖国神社が存続する限り三万五千余柱の命日祭には永代にわたって毎年奉慰顕彰が斉行されることとなり、こんなに喜ばしいことは

ありません」と挨拶。会場には「奉慰の永代神楽奉納に際して靖国神社からの拝受記念品」が展示されました。

これで、毎年七月十五日の命日祭では、将来本会で慰霊祭ができなくなっても慰霊の灯火は絶えることなく、「マ―シャル方面遺族会」の名称と共に悠久に伝え続くこととなります。

続いて黒川会長による役員選任（十一ページ参照）が発表されました。

六、国内慰霊祭行事発表 荒木常子
① 千鳥ヶ淵墓苑礼式（五月下旬）

② マ―シャル方面遺族会命日祭・永代神楽祭（七月十五日午前十一時より）

③ 全国戦没者追悼式（八月十五日）
④ 東京都戦没者追悼式（八月十五日）

⑤ 沖縄戦没者追悼式（十月下旬）

◆ 詳細は本部にお問い合わせ下さい。
七、現地慰霊巡拝の報告 高林芳夫

昨年十一月に行われた現地慰霊の模様を発表（特集を参照して下さい）。
八、その他

九、閉会

■ 直会（なおりい）

定期総会終了後、同室に配膳して直会に移りました。司会は石谷典夫常任幹事。参加者五十二名は、山口裕子さんの乾杯ご発声で、和気藹々歓談して食事を楽しみ、昨年現地慰霊のビデオを鑑賞（油井篤氏撮影）しました。午後三時に全予定を終了しました。

● 寄付者ご芳名

平成十五年一月一日から四月十七日までの間に、次の会員、会友の皆様から慰霊のための寄付金をお送り戴きました。大給湛子様、松平永芳様以下、二百六十八名で、合計百三十五万八千七百三十二円也。厚く御礼申し上げます。

【敬称略・順不同】

北海道 岩川あい 穂刈直 青森県 下川与三郎
田中正治 塚原ハナ 須藤明子 小笠原一雄 松橋ミツエ 岩手県小杉サヨ 菅原真起 高橋覚治
佐藤亨三 宮城県 伊勢輝男 相馬ツキ 高橋とし子 新田富美子 平形いせ子 松木孝子 佐々木賢三 秋田県 打矢和子 大宮ツタ 山形県 秋保十郎 丹野アサ 大場弘弥 福島県 富田ミ

ツ 三浦一郎 大野博 小野敏子 坂本キヨコ
鈴木ヨシエ 根本さとみ 茨城県 北条晃 大部美智子 神永栄子 倉橋たみ 鈴木多賀雄 栃木県 猪瀬康夫 高橋克麿 吉川吉蔵 群馬県 清水宏一 珍田光子 埼玉県 伊沢なを 宇田川ひさ 近藤マスイ 桜井かね 柴田貞子 鈴木裕子 高林芳夫 千田恒子 西勝章夫 山下みつ 小田原利子 小野博孝 片桐覚治 北原ひで 橋本強 服部陽一 間茂雄 富川艶子 千葉県 石川きみ 泉水免恵 大石タケ 芳賀タツエ 廣原実 吉田操 菅沼昇 宮本博 相川孝夫 腰川妙子 高山満喜男 津久井艶子 豊谷美恵子 谷沢英子 米田正子 東京都 會田くに 青木利一 荒木常子 飯島富美子 石川薫 岩浪邦江 内海静枝 大山美穂 大高吉郎 黒川誠 小泉ふみ江 小島八重子 佐竹エス 鈴木つな子 関谷シモ 田中猛 田島知恵子 高橋鎮夫 佃喜美 中村順子 谷梯初江 西沢和子 西田恒子 布川慶一 晝間楽平 番場信子 水野貞二 山田二美 山口裕子 山森久江 六軒つる子 石谷典夫 遠藤安男 大高時男 加藤照 木下滴子 毛塚通弘 小林法子 斉藤美美 清水武 鈴木やよひ 沼山正英 蓮沼常子 浜田つき子 森田穂二 星野綾子 神奈川県 赤坂スズ 石渡綾子 岩瀬三樹三郎 岩田とし子 上田文子 金子武晴 川名茂子 熊沢静子 栗田千代子 糞谷友孝 佐藤登志 穴戸献吉郎 渋谷良男 田中菊枝 西森サツキ 服部純昌 平松菊枝 平井加代子 森井静子 石沢洋子 榎本益明 大石純一 岡野正文 清水春江 杉田絹恵 長塚隆夫 平井貢 安井孝司 柳沢弘子 山村一郎 新潟県 本保美恵子 石丸進 渋谷セキノ 高野

清 高橋梅子 高林セキ 藤田正勝 山田正三
 富山県 池田淑子 小林照子 棚橋昭二 廣上敏夫
 夫 広島富子 村梶光栄 藤木義房 寺西ヒサ
 石川県 森芳子 村上一雄 永井武弘 吉光澄子
 山梨県 黒川正文 長野県 末松乙夫 牧内長逸
 池上忠昭 綾部はつえ 中村純久 岐阜県 島本和子
 堀尾洋平 吉田正明 静岡県 飯田たつ子
 大畑幸夫 土屋まさ子 野崎昭二 服部くにえ
 三浦久夫 愛知県 安藤昌子 岡島みね子 大見
 シノブ 川村正一 川越コウ 浜田芳枝 京都府
 川本彦次 谷正文 吉見美津治 大阪府 馬場富
 美子 大串静代 兵庫県 枝光剛郎 国見嘉治
 奈良県 奥田義寛 山中美子 和歌山県 福井栄
 子 鳥取県 井上照美 中浜ヒメコ 島根県 伊
 瀬忠夫 広島県 植田敏裕 浦手ハル 奥井礼子
 佐々木千鶴子 瀬戸隆子 藤本正 米田葉美 山
 口県 道源陽子 吉永峯生 香川県 秋山武 秋
 山百合子 石川正興 富田トシ子 愛媛県 伊藤
 梅子 泉田君子 長岡俊夫 三好邦博 森田静子
 久保田泰子 馬場清 山本峰子 高知県 柳村摩
 耶子 原一政 福岡県 荻野千代子 平田郁子
 村上清隆 吉松貞子 下釜正義 佐賀県 金子茂
 金子庄之助 草場マキ 坂本トセ 山田雪子 長
 崎県 中野フチエ 前田フサ 森テル子 山下タ
 エ 長谷土松 板浦重雄 熊本県 植川二男 片
 山玲子 鬼海富雄 塚野ヨシ子 土田利子 村上
 佳寿子 大分県 木村二三夫 宮崎県 森フサエ
 鹿児島県 野平ヨネ 揚野サツエ 東キク 沖繩
 県 久高友三 宮城雪子 会友 石本利親 稲毛
 三郎 江藤圭一 尾上一郎 久保末喜 佐藤敬義
 郡義典 兵頭義彦 豊谷秀光 山口正雄 以上。

マーシャル方面遺族会 平成14年度 会計報告書

(自：平成14年1月1日 至：平成14年12月31日)

1) 一般会計収支計算

収入の部

科目	金額
前期繰越	3,491,315
寄付金	1,514,943
受取利息	2,671
雑収入	40,500
小計	1,558,114
合計	5,049,429

支出の部

科目	金額
慰霊費	3,374,381
広報費	371,320
通信費	114,320
事務用品費	892
会議費	174,693
振替手数料	21,860
公租公課	500
雑費	26,590
小計	4,084,556
次期繰越	964,873
合計	5,049,429

2) 一般会計財産目録

平成14年12月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	68,619		
普通預金	32,023		
郵便振替	864,231		
		次期繰越	964,873
合計	964,873		964,873

3) 特別会計

収入の部			
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	9,000,000		
		次期繰越	9,000,000
合計	9,000,000		9,000,000

●定期預金及び定期貯金として保管

会長 黒川 誠
 会計担当 晝間 楽平

注) 慰霊費の内300万円は永代神楽祭申込金

◆特集◆平成十四年クエゼリン・ルオット慰霊の旅・報告 感激の現地慰霊に参加して



高林芳夫

本会主催による現地慰霊を平成十四年十一月三日(日)から八日(金)まで山口裕子団長以下十六名でクエゼリン及びルオット両島で慰霊祭を行って参りました。

参加者は、左記の通りです(敬称略・順不同)。

- 山口裕子・富田キミ・泉水堯恵・腰川妙子・片山計・藤田正勝・佐竹エス
- ・佐藤隆一・佐藤知子・村上清隆・油井篤・油井芳枝・植田敏裕・奥井禮子
- ・奥井國夫・高林芳夫

■旅程

■第一日目 ■十一月二日(土)

十四時・九段会館集合 靖国神社参拝
成田ビューホテル着 結団式 渡航説明会(成田ビューホテル泊)

■第二日目 ■十一月三日(日) 十一時

十五分・コンチネンタル航空962便
でグアムへ出発 十五時五十分・グアム着 バスにてグアム・ヒルトン・ホテルへ(グアム泊)

■第三日目 ■十一月四日(月) バスにて

空港へ 八時十分・コンチネンタル航空956便でクエゼリンへ 十七時二十五分・クエゼリン着 軍施設クエゼリン・ロッジへ(クエゼリン泊)

■第四日目 ■十一月五日(火) クエゼ

リン島にて慰霊祭
(クエゼリン泊)

■第五日目 ■十一月六日(水) ルオット

ト島にて慰霊祭
(クエゼリン泊)

■十一月七日(木)

十三時二十分・コンチネンタル航空957便でグアムへ 十八時十五分・グアム着 グアム・ヒルトン・ホテルでサヨナラパーティ(グアム泊)

■十一月八日(金)

十一時五十分・コンチネンタル航空006便で帰国の途へ 十四時四十五分・成田着(通関後解散)



山口裕子

遙か南太平洋マーシャル群島は大変遠くの戦地で、当時の方々のご苦労はさぞやと察するに余りあります。やがて六十年近くの歳月が過ぎますが、今更ながらやむを得ぬ戦争であったものの無謀な争いの悲惨さを思わないでは

いられません。

遺骨埋葬した慰霊碑のみがその昔八千名ほどの方々が無念の玉砕を致さねばならなかったことを物語るのみで、現在米軍の基地として美しく整備され、青い海を背に大きな十字架と米国旗が翻っています。

この度、米軍のブラウン司令官のご厚意で表敬訪問も和氣藹々の内に、慰霊碑に赴きお供物の数々を供え、「お父さん」、「お兄さん」、「弟よ」と帰らぬ肉親への思いを語るひとときを持つことができました。

慰霊碑建立に当たっては、将来の墓参は無理との指令の下に建立された由ですが、長い歲月は歴史を越えてこの地球上に共に生きる者同士の連なりが大きくなり、毎年の墓参の実現となったのでございましょう。

さて、ルオット島への墓参は、ブラウン司令官のご厚意で二十名乗りの軍用機が提供されることになりました。

予定ではルオット島戦没関係者三名が別途で訪れる手はずでした。一同の喜びはいかばかりか、大歓声の内に墓参に向かいました（写真4参照）。

戦跡保存されたルオット島元日本軍司令部、弾薬庫など目の当たりにして熱い思いが込み上げ、国を守るために太平洋の防波堤としてこの地に散華せねばならなかった方々の犠牲の尊さに胸が痛みました。

飛行機から見るマーシャルの青い海、島影の美しさには悲しみ苦しみや切れなさが込み上げてきます。

美しい浜辺にはあの霊砂が光り、広い海に白い波頭が印象的です。ああ、この砂です。当時は血に染まった砂浜だったことでしょう。戦争ってやつばかり酷いものです。「お父さんの亡くなった地なので、毎年でも来ます」と呟く方々の胸中は勿論のことでございます。また、当時は幼くて父上のお顔を知らなかった方の「お父さん！」と

の呼びかけに戦後の長い歲月を感じました。

米軍関係の食堂で食事を頂き、なお厚意あるおもてなしを受けました。また、お別れパーティは日系のご婦人方の手で海苔巻き、ご飯、お味噌汁、キンピラ、ひじきなどの日本食が並び、驚きと共にそのご厚意に感謝して美味しく頂きました。海苔巻きは「今日のために特別に巻きました」とのことでした。

五十八年前に肉親が玉砕しなければならなかったことは、辛くやりきれない複雑な気持ちですが、余りに美しい島の風景と皆様の優しさにも訪れたくなるのでした。島の一角には大きな十字架と米国旗が青い空にくっきりと映えて、日米両国の尊い犠牲を物語っているように思えました。戦時中にこの地に立った肉親方の胸中をふと偲びとても辛くなりましたが、心一つにしてこの慰霊の旅がで

きましたことに感謝申し上げます。また、全国の遺族の方々の思いと共に今回の慰霊祭を終えることができましたことをここに報告申し上げます。



村上清隆

平成十四年十一月二日午後二時、九段会館に集合したマーシャル方面遺族会慰霊団十六名は、貸し切りバスにて靖国神社に向かい、黒川会長、晝間副会長のお出迎えを受けて神社に参拝し、新門前にて記念写真を撮った後、両会長のお見送りを戴いて、成田ヒューホテルに向かう。ホテルでは結団式を行い、明日の渡航手続き説明会が行われる。

現地慰霊団（山口裕子団長、高林芳夫副団長）は、翌三日に成田を発ち、グアムのホテルに宿泊し、四日グワム

発八時十五分の飛行機で島々を経由してクエゼリン島に向かう。

ブルーの海に浅黄に縁取られた鎌の形をしたクエゼリン島は、五十数年前熾烈な戦場となった島とはとても思えない美しい島々が遠くまで連なって見える。クエゼリン島に降り立つと、レイン報道官、ジャクソン茂子さんに迎えられる、身分証明の写真を撮ってもらったカードを胸に付け、宿舎となるクエゼリン・ロッジに旅装を解く。

翌五日は、茂子さんの案内で英霊の眠る墓地に向かう。何年もの間墓参を待ち望んだであろう肉親のことを想うと、熱いものが込み上げてくる。バスが着くのもどかしく降り立ち、慰霊碑にまず手を合わせて、碑前に故郷から持参した肉親が生前好んでいたお供物と遺族会の花輪を飾る。

ブラウン司令官、レイン報道官も出席されて高林副団長の司会で全員黙祷を捧げた後、山口団長の追悼の言葉に

続いて出席者が次々と碑前に手を合わせ、言葉を詰まらせながら肉親に語りかけた。碑を囲んで写真を撮り、慰霊祭を終える。司令官も一人一人と握手を交わされ、記念写真に加わって戴く。慰霊祭後は、戦跡を見て回り、昼食後は茂子さんの案内でマーケットを巡って買い物をする。

六日は、双発のプロペラ機でルオット島慰霊に向かった。雲が低く、視界は悪かったが、雲の切れ間に島々が見え隠れする。空港ではコーダー司令官のお出迎えを受けて日本人墓地に向かう。椰子の木を透かして美しい海が見える。

墓地は四年前にクローング節子さんご夫妻に案内されて行ったときと同じように綺麗に手入れがされていた。クエゼリンと同様にお供え物を供え、一同黙祷を行い、高林副団長の追悼の言葉の後、ルオット島で玉碎された遺族の方が肉親に語りかけてお参りし、一

同次々に拝礼して慰霊祭を終了。

その後バスにて戦跡を巡り、司令官の説明を受ける。通訳は加代さん。前回行かなかった通信隊の壕の跡や、今も砲台に据えられて朽ちかけている大砲も「戦跡を永く保存したい」という司令官の想いから、そのままに残されていた。

空港に帰り写真を見せてもらい、ルオット島で戦死された遺族を部屋に呼ばれ、握手で哀悼の意を表された。

ルオット島に別れを告げて、午後はクエゼリン島の墓地に二回目の参拝を済まして買い物に行く。夜は茂子さんご夫妻の手造りの料理でレインさんご夫妻と現地の方数人が出席されてお別れのパーティをして戴いた。

十一月七日、これが最後のお別れになるやもしれぬと、後ろ髪を引かれる思いでクエゼリン空港を飛び立ち、島に別れを告げた。

慰霊の旅では現地の方々や山口団

長、高林副団長を始め慰霊団ご一行の皆様方には大変お世話になりありがとうございました。また、帰国致しましてからもビデオや写真をお送り戴き、深く感謝申し上げます。



富田キミ

平成十四年十一月二日九段会館に集合して、一同靖国神社に無事慰霊の旅が出来ますようお祈りいたしました。バスにて成田のビューホテルに着きまして、結団式と小田急トラベルサービスの田村亮一さんからの説明を受けました。

翌日、成田からグアムに向けて出発し、グアムに一泊して翌日クエゼリンに向かいました。途中、チューク、ポナベ、コスライを経てクエゼリンに到着しました。

空港にはマジュロからお手伝いに来られた山口佳代ちゃん、ジャクソン茂子さんのお出迎えを受けて懐かしさでいっぱいになりました。四日夜は茂子さん始め現地のボランティアの方々が歓迎会を開いて下さって日本料理でもてなしを受けました。

四日の夜に不思議なことがありました。夜中の二時頃だと思えます。私がお手洗いに起きて女性の洗面所のドアを開けてシャワー室のドアを開けて入りますと、天井から「お母さん」という低い小さな声が聞こえて来ました。私は思わず天井を見上げて誰もいるはずはありません。声も出ないほどびっくりして足はガクガク、胸はドキドキしてゾーとしました。シャワー室のカーテンを開けて見ましたが、誰もおりません。

五日の夜は別の洗面所に行きました。二枚目のドアを開けましたら、今度は「カアチャン」と声が聞こえまし

た。そのときは二回目でしたので、成仏出来なくて日本人が来たので恋しさの余り声をかけたのだと思います。可哀想にと思わず手を合わせて拝みました。奥井さんからの写真にも不思議なことがありました(写真3参照)。

翌五日はクエゼリンの慰霊祭です。九時三十分から朝早く軍の食堂で朝食を終え、バスで墓碑に参りました。司令官も見えられ、挨拶がありました。司令官を囲んで皆さんで記念の写真を撮りました。

碑の周りを綺麗に掃除をして、それぞれ持参した供物をお供えして慰霊祭の準備が出来ましたので、一同「君が代」と「海ゆかば」を合唱しましたが、涙が流れて最後までようやく歌いきりました。始めに山口団長さんの追悼の辞、続いて参加者が一人づつ碑の前に進んで亡き肉親に語りかけてご冥福を祈りました。

私は、「兄さん、今年も会いに来ま

した」と言葉にならず熱い涙が先に流れて一言も話すことが出来ませんでした。

十一月六日はルオット島での慰霊祭でした。終了後、旧日本軍のいろんな建物の残骸を見ました。涙を誘う物ばかりでした。十一月七日は日本に帰る準備です。午前中もう一度最後のお別れにバスで墓碑にお参りをして帰ることにしました。午後一時の便でグアムに向かいます。空港の外側で茂子さんと佳代ちゃんがいっまでも手を振って見送って下さいました。

グアム到着時、空港ではポンプ車による放水があり、何事かとびっくりしました。搭乗機の機長さんの定年退職を祝ってシャンペンの替わりに機体に放水されたとのことでした。機長さんの首には色とりどりの生花のレイがたくさんかけられていてニコニコと握手をして下さいました。

グアムに一泊して時間もありません

のでのんびり出来ました。お陰様で事故もなく、皆様無事に成田に着きました。



油井篤 芳枝

幻の父にどうしても会いたいと思った時は、私が五十歳になった時でした。実現するには主人が退職してからと、ずーっと考え続けてきたのですが、主人は定年三年前に希望退職し、母の元気の内に父の戦死地の様子を写真とビデオを撮り、母に一日も早く報告したいと、実現することになりました。最初の慰霊は平成十三年三月四日から三月十一日までの友好親善訪問に参加させて頂き、いろんな方々にお世話になり夢のような親善訪問を過ごさせて頂き、本当に心から感動の日々でした。

日本中、世界中にお友達が出来て世の中が以前と違ったように感じられるようになってきました。

自分自身が自分でないように思われる時が時々あります。写真やビデオを整理しながら、「なぜ世界平和が達成出来ないのか？」そればかり口から言葉に出してしまうのです。

主人が「お前のお父さんの海軍服姿はとても立派だね。どんなところで戦死されたのかな？」と言いました。その一言で、「では二人で二回目の慰霊祭に参加しようよ」となったのです。

主人は夢中で写真やビデオを撮り、マーシャルの様子が少しは解ったようです。夫婦での現地慰霊が実現し、母にその様子を報告出来たことでこれまでの肩の荷が下りました。

幸せな一週間でした。父もさぞかし「娘夫婦で慰霊に来てくれてありがとう」と思ってくれたに違いありません。そう、自己満足しております。

「毎年実行出来るように祈って下さい
幻の父上様！」



奥井禮子

私は昭和五十年、五十三年、そして五十六年に現地に参加させて戴きました。慰霊祭の様子、ご一緒した皆様との出会いなど、忘れることの出来ない思い出でいっぱいです。

五十年の時は慰霊といってもマジュロからクエゼリンへ飛行機で行き、給油時間を延長してのわずかな時間に初めて慰霊碑にお参りができました。短い慰霊でしたがクエゼリン島を訪れることを長い間思い続けてのやっとの慰霊巡拝でしたので、その喜びはひとおでした。

この度は、戦死された皆さんもかつて歌われた「君が代」、「海ゆかば」、

「ふるさと」の懐かしい歌を慰霊碑の前で合唱し、泉水さんによる「般若心経」に合わせて唱え、心からの冥福をお祈りしました。

今回の慰霊は私も高齢なので最後になると思い、息子共々の参加となりました。息子は幼かったので戦争の哀しさ悲惨さをあまり知りません。しかし、この度のクエゼリンとルオットの訪問で、戦死された人たちの無念さ、哀しさを感じてくれたようです。気にかけるながら戦死した兄も喜んでくれていることと思います。

この度の慰霊は、時間にも余裕があり、心に残る現地慰霊となりました。参加者の皆様には東京を出てから成田に帰るまで、大変お世話になりました。現地で私達を迎えて下さった皆様のご親切に感謝しております。またルオットでの慰霊も出来、新たな思い出が加わりました。これからは体に留意し、再度皆様とご一緒したいと思えます。



佐藤知子

九段会館に集合して、高林さん、藤田さん、富田さん、そして安心して旅が出来る案内人の田村さんなどの懐かしい顔に会えた。

初めて父の玉碎したとされる地へ赴いたのは、厚生省主催の遺児を対象とした平成十年の慰霊であった。二回目は夢のまた夢と思っていた弟と揃って参加することが出来たことは、望外の嬉しいことであった。

参加するたびに感じることは、「碑」がいつも綺麗に管理されていることである。そして三回目の今回は当時の弾薬庫を目の当たりにし、手を触れてみた。「声なき声」が聞こえた。

浜辺に腰を下ろし海を眺めていると、家にいることの少なかった父との

思い出が走馬燈のように浮かぶ。海水浴に行ったこと、酒保からの土産を楽しむによく迎えに行つてマントの中の父の手と手を繋いだ温もりなど、次から次に思い起こされて来るのであった。

足下に波が寄せて来るまで語るとはなしに藤田さんと過ごした時間もまた、この度の思い出深いものとなった。

取り分け今回はルオット島へは「関係者だけ」の慰霊であったのが、全員でお参り出来た陰には司令官の計らいがあったことは言葉にならないほど嬉しいことであった。

帰りの飛行機は機長のラストフライトということもあつてか、グアム空港では着陸時ホースでのシャワーを受けるなどこれまででない旅となった。

田村さん、カヨちゃん、茂子さん、そして同行の皆さんのお陰で退屈することなく心行くまでの旅であつたことに感謝致します。

●現地慰霊のお知らせ

◆平成十五年度の慰霊祭出欠はがきに「現地慰霊の希望欄」を設けましたところ、希望する方が二十五名いらっしゃいました。ご存じとと思いますが、本会は来年(平成十六年)六十一年の節目を迎えます。従いまして本会主催の現地慰霊は来年度に実施することを役員会で決定しました。

なお、費用も安くと考え、主碑のあるクエゼリン、ルオット両島の慰霊巡拝です(両島以外の島は米軍基地でないため難しい規制はなく、自由に慰霊ができます。詳細は本部にお問い合わせ下さい)。

◆参加申込みは、本年九月末日までに本部までお願いします。

●役員選任報告

副会長 晝間楽平 常任幹事 石谷典夫・荒木常子・高橋鎮夫 幹事 高林芳夫・山口良二・佐竹エス・草場寛・晝間志津子



①ケゼリン島主碑での慰霊祭風景 ②高林副団長の弔辞 ③奥井氏撮影の不思議な光が写った写真



④山口団長の報告にある米軍用機に乗る参加者 ⑤ルオット島に残る日本軍司令部跡



⑥美しいケゼリン島の浜辺（高林氏撮影）

●環礁・本部だより第8号●発行日：平成15年8月1日●発行人：黒川 誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚3-4-17 ●電話 03-3783-8382
●ファックス 03-3783-8384 ●振替：東京00100-0-93487